

四半期報告書

(第151期第2四半期)

自 平成28年7月1日

至 平成28年9月30日

日本板硝子株式会社

(E01121)

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年11月1日
【四半期会計期間】	第151期第2四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	取締役代表執行役社長兼CEO 森 重樹
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	(03)5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 村本 厚史
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【電話番号】	(03)5443-9523
【事務連絡者氏名】	経理部 村本 厚史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	7
(4) ライツプランの内容	7
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(6) 大株主の状況	8
(7) 議決権の状況	9

2 役員の状況	9
---------	---

第4 経理の状況 10

1 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	11
要約四半期連結損益計算書	11
要約四半期連結包括利益計算書	13
(2) 要約四半期連結貸借対照表	15
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	17
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	18
(5) 要約四半期連結財務諸表注記	19

2 その他	32
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報 33

[四半期レビュー報告書]

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第150期 第2四半期 連結累計期間	第151期 第2四半期 連結累計期間	第150期
会計期間	自 2015年 4月1日 至 2015年 9月30日	自 2016年 4月1日 至 2016年 9月30日	自 2015年 4月1日 至 2016年 3月31日
売上高 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	321,735 (159,596)	289,798 (139,267)	629,172
税引前四半期利益又は税引前利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△4,667 (△2,909)	10,866 (191)	△37,439
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△2,738 (△1,360)	4,241 (336)	△49,838
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)包括利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	△2,383 (△25,387)	△51,255 (△8,556)	△72,704
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	173,432	51,856	103,109
総資産額 (百万円)	907,366	708,982	812,120
親会社所有者帰属持分比率 (%)	19.1	7.3	12.7
親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり四半期(当期)利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (円)	△30.31 (△15.06)	46.94 (3.72)	△551.75
親会社の所有者に帰属する希薄化後1株当たり四半期(当期)利益(△は損失) (第2四半期連結会計期間) (円)	△30.31 (△15.06)	46.80 (3.71)	△551.75
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△3,039	6,108	21,789
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△17,523	△1,891	△26,401
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,323	△5,162	△5,908
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	47,004	39,103	46,162

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
4. 2016年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しています。前連結会計年度(2016年3月期)の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり四半期(当期)利益(△は損失)」及び「親会社の所有者に帰属する希薄化後1株当たり四半期(当期)利益(△は損失)」を算定しています。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、主要な関係会社の異動として、第1四半期連結会計期間において、従来当社グループの関連会社であったChina Glass Holdings Ltd.について、当社グループがその保有株式の一部に関する売買契約を締結したため、「持分法で会計処理される投資」から「その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産」への分類変更を行っております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当社グループが前事業年度の有価証券報告書で開示した事業等のリスクの分析につきましては、当第2四半期連結累計期間においても引き続き有効なものと考えております。当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更等はありません。

また、当社グループが将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、当第2四半期連結累計期間においては存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。全ての財務数値は、国際会計基準（IFRS）ベースで記載しております。

(1) 業績の状況

当第2四半期において、当社グループの市場は全般的には前年同期より改善しました。欧州では、建築用ガラス市場は引き続き改善し、自動車用ガラス市場も自動車販売の増加による効果が続きました。日本では、建築活動が低水準で推移した一方、自動車販売は前年同期並みとなり、市場は前年同期より軟調となりました。北米では、市場は前年同期並みとなり、好調が持続しています。南米では、特に最大の市場であるブラジルにおいて、厳しい状況が続いています。東南アジアでは、市場は改善しました。高機能ガラス市場では、プリンター向け部材の需要が減少した一方、他の製品市場は改善しており、全体として好調な市場と低調な市場が混在する状況となりました。

当第2四半期連結累計期間の個別開示項目前営業利益は、前年同期より増加しました。個別開示項目及びビルキントン買収に係る償却費控除前ベースの営業利益は、前年同期より約55%増加し157億円（前年同期は101億円）となりました。円高による為替換算のマイナス影響を除いた実質ベースの同営業利益は、前年同期比で約92%の増益となっています。親会社の所有者に帰属する四半期利益は42億円（前年同期は27億円の損失）となりました。

当社グループの事業は、建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業、高機能ガラス事業の3種類のコア製品分野からなっています。

「建築用ガラス事業」は、建築材料市場向けの板ガラス製品及び内装外装用加工ガラス製品を製造・販売しており、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高のうち41%を占めています。ソーラー・エネルギー（太陽電池用ガラス）事業も、ここに含まれます。

「自動車用ガラス事業」は、新車組立用及び補修用市場向けに種々のガラス製品を製造・販売しており、当社グループの売上高のうち51%を占めています。

「高機能ガラス事業」は、当社グループの売上高のうち8%を占めており、小型ディスプレイ用の薄板ガラス、プリンター向けレンズ及び光ガイドの製造・販売、並びに電池用セパレータやエンジン用タイミングベルト部材などのガラス繊維製品の製造・販売など、様々な事業からなっています。

セグメント別の業績概要は下表の通りです。

(単位：百万円)

	売上高		個別開示項目前営業利益	
	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
建築用ガラス事業	118,394	133,067	13,417	9,120
自動車用ガラス事業	147,921	162,444	5,250	4,154
高機能ガラス事業	23,274	25,823	502	179
その他	209	401	△5,674	△7,365
合計	289,798	321,735	13,495	6,088

建築用ガラス事業

当第2四半期連結累計期間における建築用ガラス事業の売上高は、円高に伴う為替換算の影響により、前年同期より減少しました。為替換算の影響を除けば、売上高は、主に欧州や北米において価格が改善したことにより前年同期に比べて増加しました。営業利益は、投入コストの減少による効果を引き続き受けました。

欧州における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の36%を占めています。これまでに実施した生産能力削減の効果や需要の回復を通じて市場は改善が続いているため、当社グループの価格は更に改善しました。当社グループの販売数量も、特に高付加価値品において増加しました。

日本における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の27%を占めています。販売数量は、前年同期を下回りました。商業用建築市場は低調が続いているものの、当社グループの価格は前年同期並みとなりました。営業損益は、コスト削減や投入コスト低下の効果を引き続き受けました。

北米における建築用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の15%を占めています。現地通貨ベースの売上高は、価格改善と高付加価値品の販売数量増加による効果が域内向け一般品の販売数量の微減による影響を打ち消した結果、前年同期を上回りました。価格の上昇と高付加価値品の販売数量の増加により、営業利益は改善が続きました。

その他の地域では、全般的に市場は前年同期より改善しました。南米では、前年度におけるアルゼンチンのフロート窯の定期修繕の影響が無くなったことにより、営業利益は前年同期より増加しました。東南アジアでも、国内向け需要の増加が市場で続いていることや太陽電池用ガラスの出荷が堅調に推移したため、前年同期より改善しました。

以上より、建築用ガラス事業では、売上高は1,184億円、個別開示項目前営業利益は134億円となりました。

自動車用ガラス事業

当第2四半期連結累計期間における自動車用ガラス事業の売上高は、円高に伴う為替換算の影響により、前年同期より減少しました。為替換算の影響を除けば、売上高は、主に欧州や北米において販売数量が増加したことにより、前年同期を上回りました。営業利益も、販売数量の増加と生産性の改善効果の継続により、前年同期より増加しました。

欧州における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の44%を占めています。当社グループの新車向けガラス（OE）の販売数量は、特に南欧市場において乗用車販売の回復が続いているため、前年同期より増加しました。補修用ガラス（AGR）の販売数量も、堅調に推移しました。営業利益は、販売数量及び生産性の改善により、前年同期を上回りました。

日本における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の18%を占めています。売上高と営業利益は、消費者マインドの低調が続いていることを反映して、前年同期を下回りました。しかし当第2四半期の販売数量は、熊本地震の影響を受けていた第1四半期より改善しました。AGR部門の業績は、前年同期並みでした。

北米における自動車用ガラス事業の売上高は、グループ全体における当事業売上高の28%を占めています。現地通貨ベースの売上高と営業利益は、前年同期より増加しました。乗用車販売は前年同期並みで推移したものの、当社グループの販売数量は増加しました。一方AGR部門の業績は、前年同期並みでした。

その他の地域では、南米における市場の状況は依然として低調に推移しました。

以上より、自動車用ガラス事業では、売上高は1,479億円、個別開示項目前営業利益は53億円となりました。

高機能ガラス事業

当第2四半期連結累計期間における高機能ガラス事業の売上高及び営業利益は、ディスプレイ事業における厳しい市場環境や、多機能プリンター向け部材の販売数量が減少していることによる影響を、引き続き受けました。

当社グループのベトナムにおける薄板ガラス用フロート窯を一時休止したことを受けて、ディスプレイ事業の営業損失は、前年同期より縮小しました。多機能プリンター向け部材の需要は、前年同期を下回る状況が続きました。エンジン・タイミングベルト用グラスコードの販売数量は、自動車市場の状況を反映して、堅調に推移しました。電池用セパレータ事業の業績は、生産性の改善による効果を受けました。

以上より、高機能ガラス事業では、売上高は233億円、個別開示項目前営業利益は5億円となりました。

その他

この分野には、全社費用、連結調整、前述の各セグメントに含まれない小規模な事業、並びにピルキントン社買収に伴い認識された無形資産の償却費が含まれています。当第2四半期連結累計期間のその他における営業損失は、主として前述の無形資産の償却費が減少したため、前年同期より縮小しました。

以上より、その他では、売上高は2億円、個別開示項目前営業損失は57億円となりました。

持分法適用会社

当第2四半期連結累計期間における持分法による投資損益は、前年同期より改善しました。当社グループのブラジルにおけるジョイント・ベンチャーであるCibrace社の利益は、厳しい市場環境により前年同期より減少しました。しかしこの減少は、ロシア及び中国のジョイント・ベンチャーに対する当社グループの出資持分に対して前年度末に減損損失を認識した結果、更なる投資損失の計上が無くなった効果によって相殺されました。

以上より、持分法による投資損益は3億円の利益（前年同期は5億円の損失）となりました。

参考までに、所在地別の業績は以下の通りです。

欧州は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、円高に伴う為替換算の影響により、前年同期より112億円減少し1,119億円となりました。現地通貨ベースの売上高は、建築用ガラス事業における価格の改善と販売数量の増加、並びに自動車用ガラス事業における販売数量の増加により、前年同期を上回りました。個別開示項目前営業損益は、前年同期より40億円改善し33億円の利益となりました。

日本は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、前年同期より35億円減少し706億円となりました。個別開示項目前営業損益は、主として建築用ガラス事業において市場数量が減少していること、及び高機能ガラス事業において多機能プリンター向け部材の需要が減少していることにより、前年同期より5億円悪化し4億円の損失となりました。

北米は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、円高に伴う為替換算の影響により、前年同期より57億円減少し600億円となりました。現地通貨ベースの売上高は、建築用ガラス事業における価格の改善と高付加価値品の販売数量の増加、並びに自動車用ガラス事業における販売数量の増加により、前年同期より増加しました。個別開示項目前営業利益は、建築用ガラス及び自動車用ガラスの両事業において損益が改善したため、前年同期より18億円増加し53億円となりました。

その他の地域は、当第2四半期連結累計期間の売上高が、前年同期より115億円減少し473億円となりました。個別開示項目前営業利益は、建築用ガラス事業の業績が改善したこと、及び前年度の高機能ガラス事業におけるリストラクチャリング施策の効果により、前年同期より20億円増加し53億円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、61億円のプラスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、19億円のマイナスでしたが、この中には有形固定資産の取得による支出として120億円、及び有形固定資産の売却による収入として89億円が含まれています。以上より、フリー・キャッシュ・フローは、42億円のプラスとなりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループが前事業年度の有価証券報告書で開示した対処すべき課題につきましては、当第2四半期連結累計期間においても引き続き有効なものと考えております。

第1四半期連結累計期間において、当社グループは新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題として、次の通り認識しました。

2016年6月23日に英国では欧州連合（EU）からの離脱に関する国民投票が行われました。今回の投票の結果、欧州経済の将来に関する不確実性は高まっており、特に建築や自動車の市場は消費者マインドの変動の影響を従来より受けやすくなっています。英国のEUからの正式な離脱手続きには、完了まで数年を要する可能性があり、英国とEUとの関係に短期的な変化はほとんど無いものと考えております。当社グループでは2017年3月期において欧州の市場が直ちに大幅に悪化するとは考えておりませんが、現時点で数年先の将来への影響を正確に見通すことは困難です。当社グループは、今回の国民投票結果を踏まえて、将来におけるリスク要因も慎重に考慮しつつ、今後の欧州における政治や市場の動向を注視してまいります。

これ以外に、当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は43億円となりました。事業部門別の内訳は、建築用ガラス事業部門にて14億円、自動車用ガラス事業部門にて13億円、高機能ガラス事業部門にて8億円、その他において8億円となっております。

(5) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが保有する主要な設備について重要な異動はありません。

前連結会計年度に開示しておりました次の新設及び改修計画につきましては、当第2四半期連結会計期間に完了しました。

①新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資金額 (百万円)	資金調達 方法	完了日
				既支払額		
Pilkington Automotive Poland Sp. z o. o	ポーランド	自動車用 ガラス	加工ガラス 製造設備	3,129	自己資金	2017年3月期 第2四半期

②改修

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資金額 (百万円)	資金調達 方法	完了日
				既支払額		
Pilkington North America Inc.	アメリカ	建築用 ガラス	板ガラス 製造設備	4,167	自己資金	2017年3月期 第2四半期

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

2016年9月末時点の総資産は7,090億円となり、2016年3月末から1,031億円減少しました。

当社グループの資本の源泉としては、事業活動からの営業キャッシュ・フロー、銀行からの借入金、社債、ファイナンス・リース契約、又は資本が挙げられます。2016年9月末現在、当社グループの総借入残高の構成割合は、銀行からの借入金が約95%、社債が約4%、ファイナンス・リース契約が約1%となっております。

当社グループは、最適な調達方法と調達期間の組み合わせにより、適切なコストで安定的に資金を確保することを、資金調達の基本方針としております。

2016年9月末時点のネット借入残高は、2016年3月末より150億円減少し、3,661億円となりました。このネット借入の減少は、主として円高に伴う為替換算の影響が92億円となったことに加えて、全般的にキャッシュ・フローが改善したことによるものです。2016年9月末時点の総借入残高は、4,174億円となりました。

2016年9月末時点で、当社グループは未使用の融資枠を315億円保有しております。

2016年9月末時点の資本合計は、主として円高の進行に伴う為替換算の影響により、2016年3月末より519億円減少し、601億円となりました。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営の基本方針は、「オープンでフェア」「企業倫理の遵守」「地球環境問題への貢献」を基本姿勢とし、「先進性があり、かつグローバルで存在感のある企業」と同時に「すべてのステークホルダーにとってのグループ企業価値の向上」を目指しております。

当社グループは、今後当社グループが進むべき方向として、「VAガラスカンパニー」に変容・変革することを、長期戦略ビジョンとして設定しております。VAとは、英語のValue-addedの頭文字に由来しており、当社グループはこのビジョンの下で、持てる経営資源を高付加価値（VA）製品の開発と、その拡販に注力いたします。また当社グループは、2014年5月15日付けで公表の通り、2018年3月期までの期間を対象とする中期経営計画（MTP）を策定しております。

当社グループでは、MTPの策定以降、高付加価値製品の販売拡大によって「VAガラスカンパニー」への変革において大きく進捗してまいりました。欧州市場は徐々に改善し、北米市場も好調に推移しています。また世界的なエネルギーコスト低下の効果も受けました。こうしたプラス要素の一方、次のようなマイナス要素によってその効果は限られたものとなりました。自動車用ガラス事業では、南米において厳しい経済状況により自動車の販売台数が大幅に減少し、当社グループの業績にも大きく影響を及ぼしています。建築用ガラス事業では、欧州市場は最近になって改善しているものの、改善の始まりは当初の想定より遅いものとなりました。高機能ガラス事業は、ディスプレイ市場において厳しい状況に直面しました。事業の業績は全般的には改善しているものの、現在の円高が続けば、当社グループの事業活動の世界分布に従い、今後の業績にも影響を与えるものと考えられます。

MTP策定当初の最上位目標であった財務サステナビリティ（財務面で安定的な姿になる）の実現と「VAガラスカンパニー」への変革は、今後も引き続き当社グループの基本戦略の柱となります。当社グループは、MTPにおける財務目標としてネット借入/EBITDA比率3倍、売上高営業利益率（ROS）（注）8%以上の二つを掲げ、またROEについては10%以上をイメージとして想定したうえで、業績の改善に取り組み、ここ数年少しずつながらも進捗してまいりました。これらの財務目標は依然として実現可能なものと考えておりますが、当社グループがいくつかの市場で直面している厳しい状況や円高に伴う為替換算の影響も考慮した結果、その達成は当初の目標から2年先の2020年3月期になるものと想定しております。

（注）個別開示項目及びピルキントン社買収に係る償却費控除前営業利益をベースに算定。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,775,000,000
計	1,775,000,000

(注) 2016年6月29日開催の第150期定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されています。これにより、株式併合の効力発生日(2016年10月1日)をもって、発行可能株式総数は1,597,500,000株減少し、177,500,000株となっています。

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2016年9月30日)	提出日現在発行数(株) (注1) (2016年11月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	903,586,999	90,358,699	東京証券取引所第一部	単元株式数 1,000株(注2)
計	903,586,999	90,358,699	—	—

(注) 1. 提出日現在の発行数には、この四半期報告書提出日の新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。
2. 完全議決権株式であり、権利内容に特に限定のない当社における標準となる株式であります。
2016年6月29日開催の第150期定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されています。これにより、株式併合の効力発生日(2016年10月1日)をもって、単元株式数が1,000株から100株に変更となっています。
また同日付で普通株式10株を1株に併合したことにより、発行済株式総数は813,228,300株減少し、90,358,699株となっています。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年7月1日～ 2016年9月30日 (注1)	36,000	903,586,999	3	116,452	2	124,774

(注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。
2. 2016年6月29日開催の第150期定時株主総会において、株式併合に係る議案が承認可決されています。これにより、株式併合の効力発生日(2016年10月1日)をもって、発行済株式総数が813,228,300株減少し、90,358,699株となっています。

(6) 【大株主の状況】

(2016年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	37,718	4.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	27,573	3.05
MSIP CLIENT SECURITIES (モルガン・スタンレーMUFG証券株式 会社)	GB 25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9-7 大手町フィナンシャルシティ サウス タワー)	23,088	2.55
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	20,253	2.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,530	1.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,420	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口6)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,414	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口2)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,358	1.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口3)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,298	1.13
JP MORGAN CHASE BANK 385 151 (株式会社みずほ銀行決済営業部)	GB 25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15-1 品 川インターシティA棟)	10,268	1.13
計	—	170,921	18.91

(注) 信託銀行各社の持ち株数には、信託業務に係る株式数が含まれております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(2016年9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 94,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 900,912,000	900,912	—
単元未満株式	普通株式 2,580,999	—	—
発行済株式総数	903,586,999	—	—
総株主の議決権	—	900,912	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の中には、証券保管振替機構名義株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

② 【自己株式等】

(2016年9月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の合 計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
日本板硝子(株)	東京都港区三田 三丁目5番27号	94,000	—	94,000	0.01
計	—	94,000	—	94,000	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（2016年7月1日から2016年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日) 修正再表示(注)
売上高	(5) (e)	289,798	321,735
売上原価		△215,693	△246,577
売上総利益		74,105	75,158
その他の収益		910	1,551
販売費		△25,822	△29,195
管理費		△31,208	△35,002
その他の費用		△4,490	△6,424
個別開示項目前営業利益	(5) (e)	13,495	6,088
個別開示項目	(5) (f)	6,396	△1,455
個別開示項目後営業利益		19,891	4,633
金融収益	(5) (g)	686	683
金融費用	(5) (g)	△9,977	△9,517
持分法による投資利益(△は損失)		266	△466
税引前四半期利益(△は損失)		10,866	△4,667
法人所得税	(5) (h)	△5,752	3,064
四半期利益(△は損失)		5,114	△1,603
非支配持分に帰属する四半期利益		873	1,135
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失)		4,241	△2,738
		5,114	△1,603
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	(5) (i)	46.94	△30.31
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	(5) (i)	46.80	△30.31

(注) 注記(i)「1株当たり利益」参照

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	当第2四半期連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日) 修正再表示 (注)
売上高	(5) (e)	139,267	159,596
売上原価		△104,615	△122,353
売上総利益		34,652	37,243
その他の収益		267	777
販売費		△12,324	△15,240
管理費		△15,032	△16,891
その他の費用		△1,185	△2,914
個別開示項目前営業利益	(5) (e)	6,378	2,975
個別開示項目	(5) (f)	△1,437	△835
個別開示項目後営業利益		4,941	2,140
金融収益	(5) (g)	163	70
金融費用	(5) (g)	△5,211	△4,736
持分法による投資利益 (△は損失)		298	△383
税引前四半期利益 (△は損失)		191	△2,909
法人所得税	(5) (h)	545	1,842
四半期利益 (△は損失)		736	△1,067
非支配持分に帰属する四半期利益		400	293
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失)		336	△1,360
		736	△1,067
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	(5) (i)	3.72	△15.06
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	(5) (i)	3.71	△15.06

(注) 注記(i)「1株当たり利益」参照

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日) 修正再表示 (注)
四半期利益 (△は損失)	5,114	△1,603
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられない項目		
確定給付制度の再測定 (法人所得税控除後)	(5) (m) △4,043	8,133
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する 持分金融商品の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	△7,364	307
純損益に振り替えられない項目合計	△11,407	8,440
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△46,645	△7,714
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する その他の金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	278	△80
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動 (法人所得税控除後)	1,186	△1,055
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△45,181	△8,849
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)	△56,588	△409
四半期包括利益合計	△51,474	△2,012
非支配持分に帰属する四半期包括利益	△219	371
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益	△51,255	△2,383
	△51,474	△2,012

(注) 注記(c)「重要な会計方針」参照

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日) 修正再表示(注)
四半期利益(△は損失)	736	△1,067
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられない項目		
確定給付制度の再測定 (法人所得税控除後)	(5) (m) △3,264	898
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する 持分金融商品の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	3,151	△1,480
純損益に振り替えられない項目合計	△113	△582
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△9,593	△22,509
その他の包括利益を通じて公正価値を測定するそ の他の金融資産の公正価値の純変動 (法人所得税控除後)	146	43
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動(法人所得税控除後)	402	△1,669
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△9,045	△24,135
その他の包括利益合計 (法人所得税控除後)	△9,158	△24,717
四半期包括利益合計	△8,422	△25,784
非支配持分に帰属する四半期包括利益	134	△397
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益	△8,556	△25,387
	△8,422	△25,784

(注) 注記(c)「重要な会計方針」参照

(2) 【要約四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2016年9月30日)	前連結会計年度末 (2016年3月31日)
資産		
非流動資産		
のれん	96,322	113,459
無形資産	53,326	62,898
有形固定資産	230,531	258,866
投資不動産	630	715
持分法で会計処理される投資	12,492	17,869
退職給付に係る資産	13,708	18,837
売上債権及びその他の債権	15,595	16,395
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産	24,300	33,995
デリバティブ金融資産	197	26
繰延税金資産	42,223	48,357
	<u>489,324</u>	<u>571,417</u>
流動資産		
棚卸資産	99,861	108,862
未成工事支出金	713	716
売上債権及びその他の債権	67,670	73,667
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産	85	346
デリバティブ金融資産	2,009	815
現金及び現金同等物	49,135	55,074
	<u>219,473</u>	<u>239,480</u>
売却目的で保有する資産	185	1,223
	<u>219,658</u>	<u>240,703</u>
資産合計	<u><u>708,982</u></u>	<u><u>812,120</u></u>

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2016年9月30日)	前連結会計年度末 (2016年3月31日)
負債及び資本		
流動負債		
社債及び借入金	100,203	139,089
デリバティブ金融負債	2,821	4,453
仕入債務及びその他の債務	108,257	123,198
引当金	13,351	16,181
繰延収益	2,785	2,989
	<u>227,417</u>	<u>285,910</u>
非流動負債		
社債及び借入金	311,522	289,319
デリバティブ金融負債	2,850	4,098
仕入債務及びその他の債務	424	1,716
繰延税金負債	15,502	17,321
退職給付に係る負債	65,907	75,111
引当金	16,636	16,512
繰延収益	8,601	10,122
	<u>421,442</u>	<u>414,199</u>
負債合計	<u>648,859</u>	<u>700,109</u>
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	116,452	116,449
資本剰余金	127,513	127,511
利益剰余金	△63,252	△63,502
利益剰余金 (IFRS移行時の累積換算差額)	△68,048	△68,048
その他の資本の構成要素	△60,809	△9,301
親会社の所有者に帰属する持分合計	<u>51,856</u>	<u>103,109</u>
非支配持分	8,267	8,902
資本合計	<u>60,123</u>	<u>112,011</u>
負債及び資本合計	<u>708,982</u>	<u>812,120</u>

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金（IFRS 移行時の 累積換算 差額）	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2016年4月1日残高	116,449	127,511	△63,502	△68,048	△9,301	103,109	8,902	112,011
四半期包括利益合計			198		△51,453	△51,255	△219	△51,474
剰余金の配当						—	△416	△416
新株予約権の増減	3	△23	77		△55	2		2
自己株式の取得及び処分					△0	△0		△0
利益剰余金から 資本剰余金への振替		25	△25			—		—
2016年9月30日残高	116,452	127,513	△63,252	△68,048	△60,809	51,856	8,267	60,123

(単位：百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	利益剰余 金（IFRS 移行時の 累積換算 差額）	その他の 資本の 構成要素	親会社の所 有者に帰属 する持分合 計	非支配 持分	資本合計
2015年4月1日残高	116,449	127,511	△25,082	△68,048	24,916	175,746	10,262	186,008
四半期包括利益合計			5,395		△7,778	△2,383	371	△2,012
剰余金の配当						—	△634	△634
新株予約権の増減					92	92		92
自己株式の取得及び処分		△21			△2	△23		△23
利益剰余金から 資本剰余金への振替		21	△21			—		—
2015年9月30日残高	116,449	127,511	△19,708	△68,048	17,228	173,432	9,999	183,431

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
営業活動による現金生成額	(5) (k)	17,838	7,447
利息の支払額		△9,823	△9,093
利息の受取額		633	445
法人所得税の支払額		△2,540	△1,838
営業活動によるキャッシュ・フロー		6,108	△3,039
投資活動によるキャッシュ・フロー			
持分法適用会社からの配当金受領額		14	9
有形固定資産の取得による支出		△11,962	△16,996
有形固定資産の売却による収入		8,909	230
無形資産の取得による支出		△649	△731
無形資産の売却による収入		46	0
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の購入による支出		△3	△4
その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の売却による収入		1,964	31
貸付金による支出		△255	△361
貸付金の返済による収入		46	6
その他		△1	293
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,891	△17,523
財務活動によるキャッシュ・フロー			
親会社の株主への配当金の支払額		—	△0
非支配持分株主への配当金の支払額		△416	△628
社債償還及び借入金返済による支出		△86,714	△52,289
社債発行及び借入れによる収入		81,968	58,242
その他		—	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー		△5,162	5,323
現金及び現金同等物の増減額		△945	△15,239
現金及び現金同等物の期首残高	(5) (1)	46,162	62,340
現金及び現金同等物に係る換算差額		△6,114	△97
現金及び現金同等物の四半期末残高	(5) (1)	39,103	47,004

(5) 【要約四半期連結財務諸表注記】

(a) 報告企業

当社及び連結子会社（以下、当社グループ）は、建築用及び自動車用ガラスの生産・販売における世界的なリーディング・カンパニーであると共に、様々なハイテク分野で活躍する高機能ガラス事業を展開しております。当社グループの親会社である日本板硝子株式会社は、日本に所在する企業であり、東京証券取引所にて株式を上場しております。当社の登記されている本社の住所は、東京都港区三田三丁目5番27号です。

(b) 作成の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に定める要件を満たしており、同条に定める指定国際会計基準特定会社に該当いたします。

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、投資不動産、デリバティブ金融資産及び負債、その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産を除き、取得原価を基礎として作成されております。

本要約四半期連結財務諸表は、2016年11月1日に当社取締役代表執行役社長兼CEO森 重樹及び当社最高財務責任者である取締役代表執行役副社長兼CFO諸岡 賢一によって承認されております。

要約四半期連結財務諸表の表示通貨は日本円であり、特に注釈の無い限り、百万円単位での四捨五入により表示しております。

(c) 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度（2016年3月期）に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

当連結会計年度第1四半期より、当社グループはIFRS第9号「金融商品」を適用しております。IFRS第9号の適用による当社グループへの主な影響は、「売却可能金融資産」から「その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産」への分類変更です。連結貸借対照表において従来「売却可能金融資産」に計上していた全ての金融資産は、「その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産」という新たな表示科目で計上するよう分類変更いたします。この科目には、固定利付債券（負債性金融商品）に対する投資及び株式（持分金融商品）に対する投資が含まれます。この科目に含まれる持分金融商品は、当社グループがその営業や財務の方針に対して重要な影響力を有していない相手先に対する投資です。前述の分類変更を除き、負債性金融商品に対する投資に関する当社グループの会計方針には変更はありません。持分金融商品に対する投資に関する会計方針は、減損損失について変更いたします。これらの減損損失は、従来は連結損益計算書において認識していましたが、IFRS第9号の適用により、今後は連結包括利益計算書において認識します。当社グループでは、前連結会計年度（2016年3月期）において重要性のある減損損失が発生しなかったため、前第2四半期連結累計期間の連結損益計算書については修正再表示を行っておりません。「その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産」に分類した持分金融商品の公正価値の変動は、従来は連結包括利益計算書において純損益に振り替えられる可能性のある項目として表示していましたが、今後は事後的に純損益に振り替えられることが無くなるため、前第2四半期連結累計期間の連結包括利益計算書については修正再表示を行っております。

またIFRS第9号の適用により、当社グループでは、債権等の評価において予想信用損失モデルを適用しております。このモデルの下では、将来予測に基づく複数のシナリオを用いて信用損失（減損）の可能性を検討し、その金額を測定します。このモデルの適用により、前連結会計年度期首（2015年4月1日）、前連結会計年度末（2016年3月末）及び当第2四半期連結会計期間末（2016年9月末）の連結貸借対照表等への影響はありません。

更にIFRS第9号の適用により、当社グループでは、ヘッジ会計に関する会計方針も変更しています。期間に関連していると考えられるヘッジ契約において、ヘッジにかかるコストは、従来はヘッジ手段にかかる損益の一部として連結包括利益計算書においてヘッジ関係の有効期間にわたって認識し、ヘッジ関係の終了をもって連結損益計算書に組み替えていましたが、今後は連結損益計算書においてヘッジ関係の有効期間にわたって期間按分し認識いたします。当社グループでは、前連結会計年度（2016年3月期）においてこの変更に伴う影響には重要性が乏しいため、前第2四半期連結累計期間の比較情報について修正再表示を行っておりません。

(d) 重要な会計上の見積り、判断及び仮定

当社グループは、将来に関する見積り及び仮定の設定を行っております。会計上の見積りの結果は、その定義上、関連する実際の結果と異なることがあります。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び仮定は、前連結会計年度（2016年3月期）に係る連結財務諸表と同様であります。

見積り及び判断は、継続的に評価され、過去の経験及び他の要因（状況により合理的であると認められる将来事象の発生見込みを含む）に基づいております。

(e) セグメント情報

当社グループはグローバルに事業活動を行っており、以下の報告セグメントを有しております。

建築用ガラス事業は、建築材料市場向けの板ガラス製品及び内装外装用加工ガラス製品を製造・販売しております。このセグメントには、太陽電池用ガラス事業も含まれます。

自動車用ガラス事業は、新車組立用及び補修用市場向けに種々のガラス製品を製造・販売しております。

高機能ガラス事業は、小型ディスプレイ用の薄板ガラス、プリンター向けレンズ及び光ガイドの製造・販売、並びに電池用セパレータやエンジン用タイミングベルト部材などのガラス繊維製品の製造・販売など、様々な事業からなっています。

その他の区分は、本社費用、連結調整並びに上記報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

当第2四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

(単位：百万円)

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	118,394	147,921	23,274	209	289,798
セグメント間売上高	9,002	854	16	2,386	12,258
セグメント売上高計	127,396	148,775	23,290	2,595	302,056
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	13,417	5,250	502	△3,459	15,710
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△2,215	△2,215
個別開示項目前営業利益	13,417	5,250	502	△5,674	13,495
個別開示項目	△1,193	3,691	△247	4,145	6,396
個別開示項目後営業利益					19,891
金融費用（純額）					△9,291
持分法による投資利益					266
税引前四半期利益					10,866
法人所得税					△5,752
四半期利益					5,114

前第2四半期連結累計期間（自 2015年4月1日 至 2015年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	133,067	162,444	25,823	401	321,735
セグメント間売上高	11,057	1,192	23	2,761	15,033
セグメント売上高計	144,124	163,636	25,846	3,162	336,768
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	9,120	4,154	179	△3,307	10,146
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△4,058	△4,058
個別開示項目前営業利益	9,120	4,154	179	△7,365	6,088
個別開示項目	△5	△1,409	—	△41	△1,455
個別開示項目後営業利益					4,633
金融費用（純額）					△8,834
持分法による投資損失					△466
税引前四半期損失					△4,667
法人所得税					3,064
四半期損失					△1,603

当第2四半期連結会計期間（自 2016年7月1日 至 2016年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	58,478	69,440	11,250	99	139,267
セグメント間売上高	3,684	437	7	1,192	5,320
セグメント売上高計	62,162	69,877	11,257	1,291	144,587
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	6,938	1,536	434	△2,097	6,811
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△433	△433
個別開示項目前営業利益	6,938	1,536	434	△2,530	6,378
個別開示項目	△274	△1,110	△7	△46	△1,437
個別開示項目後営業利益					4,941
金融費用（純額）					△5,048
持分法による投資利益					298
税引前四半期利益					191
法人所得税					545
四半期利益					736

前第2四半期連結会計期間（自 2015年7月1日 至 2015年9月30日）における報告セグメントごとの実績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
売上高					
外部顧客への売上高	68,410	79,299	11,664	223	159,596
セグメント間売上高	5,520	660	12	1,356	7,548
セグメント売上高計	73,930	79,959	11,676	1,579	167,144
ピルキントン買収に係る償却費 控除前セグメント利益	5,808	1,561	△5	△2,388	4,976
ピルキントン買収に係る償却費	—	—	—	△2,001	△2,001
個別開示項目前営業利益	5,808	1,561	△5	△4,389	2,975
個別開示項目	14	△786	—	△63	△835
個別開示項目後営業利益					2,140
金融費用（純額）					△4,666
持分法による投資損失					△383
税引前四半期損失					△2,909
法人所得税					1,842
四半期損失					△1,067

当第2四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年9月30日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	133,145	138,369	40,876	6,878	319,268
資本的支出（無形資産含む）	5,090	4,550	517	1,304	11,461

前第2四半期連結累計期間（自 2015年4月1日 至 2015年9月30日）における報告セグメントのネット・トレーディング・アセットと資本的支出は以下の通りです。

（単位：百万円）

	建築用 ガラス事業	自動車用 ガラス事業	高機能 ガラス事業	その他	合計
ネット・トレーディング・アセット	160,593	170,817	52,394	2,261	386,065
資本的支出（無形資産含む）	7,279	6,145	350	132	13,906

ネット・トレーディング・アセットは、有形固定資産、投資不動産、無形資産（企業結合に係るものを除く）、棚卸資産、未成工事支出金、売上債権及びその他の債権（金融債権を除く）、仕入債務及びその他の債務（金融債務を除く）によって構成されております。

資本的支出は有形固定資産及び無形資産の追加取得によるものです。

(f) 個別開示項目

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
個別開示項目（収益）：		
有形固定資産等の売却による利益	7,909	—
事業撤退による利益	855	—
関連会社に対する投資の売却による利益	745	—
関連会社に対する持分変動益	—	96
有形固定資産等の減損損失の戻入益	—	6
その他	24	—
	9,533	102
個別開示項目（費用）：		
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了にかかる費用を含む)	△1,621	△1,093
有形固定資産等の減損損失	△1,304	—
係争案件の解決に係る費用	△212	△460
その他	—	△4
	△3,137	△1,557
	6,396	△1,455

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
個別開示項目（収益）：		
有形固定資産等の売却による利益	234	—
その他	24	—
	258	—
個別開示項目（費用）：		
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了にかかる費用を含む)	△886	△797
有形固定資産等の減損損失	△637	—
係争案件の解決に係る費用	△172	△34
その他	—	△4
	△1,695	△835
	△1,437	△835

当第2四半期連結累計期間における有形固定資産等の売却による利益は、2016年5月13日付けで公表の通り、京都府京都市所在の土地及びマレーシア（Sungai Buloh）所在の土地及び建物について、セール・アンド・リースバック取引を実施したことによるものです。

当第2四半期連結累計期間における事業撤退による利益は、当社グループによる中国における結晶系太陽光発電用の型板ガラス事業からの撤退に伴い発生したものです。この中には、これまで連結包括利益計算書を通じて認識されていた在外営業活動体の換算差額の累計額の組替調整による利益も含まれています。

当第2四半期連結累計期間における関連会社に対する投資の売却による利益は、China Glass Holdings Ltd.（中国）に対する当社グループの保有株式の一部について売買契約を締結したことによるものです。この中には、これまで連結包括利益計算書を通じて認識されていた在外営業活動体の換算差額の累計額の組替調整による利益も含まれています。

前第2四半期連結累計期間における関連会社に対する持分変動益は、Holding Concorde SA（コロンビア）が増資を行いました。当社グループは出資に応じなかったことから発生したものです。

当第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結累計期間におけるリストラクチャリング費用（雇用契約の終了に係る費用を含む）は、世界各地で発生したものであり、余剰となった従業員の雇用契約の終了に伴う費用を含んでいます。当第2四半期連結累計期間の費用は、主として建築用ガラス及び自動車用ガラス両事業の欧州、並びに高機能ガラス事業のベトナムのリストラクチャリングにおいて発生したものです。

当第2四半期連結累計期間における有形固定資産等の減損損失は、主として建築用ガラス及び自動車用ガラス両事業の欧州において発生したものです。

当第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結累計期間における係争案件の解決に係る費用は、欧州競争法違反の疑いにより欧州委員会が当社グループに対して過料を課する旨の決定を発表したことに続き、顧客である自動車メーカー数社によって行われた損害賠償請求に関して発生したものです。

(g) 金融収益及び費用

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
金融収益		
利息収入	655	589
為替差益	31	94
	<u>686</u>	<u>683</u>
金融費用		
社債及び借入金の支払利息	△9,474	△8,364
非支配持分に対する非持分金融商品である 優先株式の支払配当金	△119	△136
為替差損	△38	△123
	<u>△9,631</u>	<u>△8,623</u>
時間の経過により発生した割引の戻し	△106	△121
退職給付費用		
一純利息費用	△240	△773
	<u>△9,977</u>	<u>△9,517</u>

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
金融収益		
利息収入	150	19
為替差益	13	51
	<u>163</u>	<u>70</u>
金融費用		
社債及び借入金の支払利息	△4,966	△4,114
非支配持分に対する非持分金融商品である 優先株式の支払配当金	△58	△69
為替差損	△6	△103
	<u>△5,030</u>	<u>△4,286</u>
時間の経過により発生した割引の戻し	△52	△61
退職給付費用		
一純利息費用	△129	△389
	<u>△5,211</u>	<u>△4,736</u>

(h) 法人所得税

当第2四半期連結累計期間における法人所得税の負担率は、持分法による投資利益考慮前の税引前四半期利益に対して54.3%となっております（前第2四半期連結累計期間は持分法による投資損失考慮前の税引前四半期損失に対して72.9%）。

なお、当第2四半期連結累計期間の法人所得税は、2017年3月31日時点の実効税率を合理的に見積り算定しております。

(i) 1株当たり利益

(a) 基本

基本的1株当たり利益は、親会社の所有者に帰属する四半期利益を、当該四半期連結累計期間の発行済普通株式の加重平均株式数で除して算定しております。発行済普通株式の加重平均株式数には、当社グループが買入れて自己株式として保有している普通株式は含まれません。

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失) (百万円)	4,241	△2,738
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	90,344	90,321
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	46.94	△30.31

	当第2四半期 連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失) (百万円)	336	△1,360
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	90,348	90,327
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	3.72	△15.06

(注) 2016年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しています。前連結会計年度(2016年3月期)の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「基本的1株当たり四半期利益(△は損失)」を算定しています。

(b) 希薄化後

希薄化後1株当たり利益は、すべての希薄化効果のある潜在的普通株式が転換されたと仮定して、当期利益と発行済普通株式の加重平均株式を調整することにより算定されます。当社グループにはストック・オプションによる希薄化効果を有する潜在的普通株式が存在します。ストック・オプションについては、付与された未行使のストック・オプションの権利行使価額に基づき、公正価値（当社株式の当期の平均株価によって算定）で取得される株式数を算定するための計算が行われます。前述の方法で計算された株式数は、発行済普通株式の加重平均株式数に加算されます。

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
利益		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失) (百万円)	4,241	△2,738
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる利益 (△は損失) (百万円)	4,241	△2,738
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	90,344	90,321
調整:		
- スtock・オプション (千株)	281	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる普通株式の加重平均株式数 (千株)	90,625	90,321
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	46.80	△30.31

(注) 前第2四半期連結累計期間においては、ストック・オプションの転換が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有していません。

	当第2四半期 連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結会計期間 (自 2015年7月1日 至 2015年9月30日)
利益		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (△は損失) (百万円)	336	△1,360
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる利益 (△は損失) (百万円)	336	△1,360
普通株式の加重平均株式数		
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	90,348	90,327
調整:		
- スtock・オプション (千株)	142	-
希薄化後1株当たり四半期利益の算定に 用いる普通株式の加重平均株式数 (千株)	90,490	90,327
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	3.71	△15.06

(注) 前第2四半期連結会計期間においては、ストック・オプションの転換が1株当たり四半期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有していません。

2016年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しています。前連結会計年度(2016年3月期)の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「希薄化後1株当たり四半期利益(△は損失)」を算定していません。

(j) 為替レート

主要な通貨の為替レートは以下の通りです。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)		前連結会計年度 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)		前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	
	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート	平均レート	期末日レート
英ポンド	145	130	181	161	188	182
米ドル	106	101	120	113	122	121
ユーロ	119	112	132	127	135	135

(k) 営業活動によるキャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
四半期利益 (△は損失)	5,114	△1,603
調整項目：		
法人所得税	5,752	△3,064
減価償却費 (有形固定資産)	13,250	15,580
償却費 (無形資産)	3,296	5,392
減損損失	1,399	27
減損損失の戻入益	△87	△9
有形固定資産売却益	△8,210	△122
事業撤退による利益	△855	—
関連会社に対する投資の売却による利益	△745	—
関連会社に対する持分変動益	—	△96
繰延収益の増減	△270	△383
金融収益	△686	△683
金融費用	9,977	9,517
持分法による投資損失 (△は利益)	△266	466
その他	△1,394	199
引当金及び運転資本の増減考慮前の 営業活動によるキャッシュ・フロー	26,275	25,221
引当金及び退職給付に係る負債の増減	△4,168	△6,753
運転資本の増減：		
— 棚卸資産の増減	△686	△640
— 未成工事支出金の増減	△117	△189
— 売上債権及びその他の債権の増減	63	△4,265
— 仕入債務及びその他の債務の増減	△3,529	△5,927
運転資本の増減	△4,269	△11,021
営業活動による現金生成額	17,838	7,447

(1) 現金及び現金同等物

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自2015年4月1日 至2015年9月30日)
現金及び現金同等物	55,074	67,695
銀行当座借越	△8,912	△5,355
現金及び現金同等物の期首残高	46,162	62,340
現金及び現金同等物	49,135	60,096
銀行当座借越	△10,032	△13,092
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,103	47,004

(m) 退職後給付

当第2四半期連結累計期間の連結包括利益計算書の確定給付制度の再測定には、当社グループの英国所在の主要な年金制度におけるBuy-in（バイ・イン）の実施に伴い発生した年金制度資産にかかる損失が含まれております。このバイ・イン取引によって、当該年金制度は、保険会社からの継続的な収入の受領を保証されることとなります。取引の実施に際して、当該年金制度は保有していた年金制度資産の一部を保険会社に対して拠出しました。このようなバイ・インの実施により、当該年金制度は、割引率の変動や寿命の動向等による将来の年金リスクに対するエクスポージャーを軽減することが可能となります。

(n) 公正価値測定

経常的に公正価値で測定される資産及び負債に関する公正価値ヒエラルキー

レベル1：同一の金融資産及び負債について、活発な市場における（未調整の）市場価格があれば、当該市場価格

レベル2：直接的又は間接的に観察可能な、レベル1に含まれる市場価格以外のインプット

レベル3：市場価格に基づかない、観察不能なインプット

当第2四半期連結会計期間末（2016年9月30日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資不動産				
賃貸不動産	—	—	630	630
	—	—	630	630
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産				
英国国債	2,938	—	—	2,938
上場株式	18,173	—	—	18,173
非上場株式	—	—	2,805	2,805
その他の債券	262	—	—	262
その他	—	—	207	207
	21,373	—	3,012	24,385
デリバティブ金融資産				
金利スワップ	—	13	—	13
為替予約	—	1,629	—	1,629
商品スワップ	—	564	—	564
	—	2,206	—	2,206
デリバティブ金融負債				
金利スワップ	—	1,493	—	1,493
為替予約	—	906	—	906
商品スワップ	—	3,272	—	3,272
	—	5,671	—	5,671

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資不動産				
賃貸不動産	—	—	715	715
	—	—	715	715
その他の包括利益を通じて 公正価値を測定する金融資産				
英国国債	3,529	—	—	3,529
上場株式	15,585	—	—	15,585
非上場株式	—	—	14,698	14,698
その他の債券	296	—	—	296
その他	—	—	233	233
	19,410	—	14,931	34,341
デリバティブ金融資産				
為替予約	—	785	—	785
商品スワップ	—	56	—	56
	—	841	—	841
デリバティブ金融負債				
金利スワップ	—	1,851	—	1,851
為替予約	—	1,434	—	1,434
商品スワップ	—	5,266	—	5,266
	—	8,551	—	8,551

当第2四半期連結累計期間において、公正価値ヒエラルキーのレベル間の資産または負債の振替はありません。

レベル2の金融資産及び金融負債は、デリバティブ金融資産及びデリバティブ金融負債です。デリバティブ金融資産及び金融負債の公正価値は、取引先金融機関等から提示された価格や期末日現在の市場価格に基づき算定しております。

レベル3の資産は、主として投資不動産及び非上場株式です。投資不動産は、将来の予想賃貸料収益に基づく評価又は直近に入手した外部専門家による鑑定評価を参照して、公正価値を算定しております。非上場株式は、売買目的以外のものであり、純資産価額や将来予想キャッシュ・フロー等を使用した評価技法を用いて公正価値を算定しております。レベル3の資産の公正価値は、様々な要因により変動します。投資不動産の公正価値に影響を与える主要な要因は、投資不動産が所在する市場における賃貸料相場や不動産価格の変動です。非上場株式の公正価値に影響を与える主要な要因は、これらが主として日本の事業会社によって発行された株式であるため、日本経済に関する成長予測です。

公正価値ヒエラルキーにおいてレベル3に区分されたその他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の調整表は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)
4月1日現在	14,931	2,957
処分	△0	△30
減損損失	—	△3
連結包括利益計算書で認識された評価損益	△9,410	9,380
売却目的で保有する資産への振替	△1,740	—
為替換算差額	△769	△26
9月30日現在	3,012	12,278

連結包括利益計算書で認識された評価損益は、その他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産に分類されていた当社グループのメキシコ及びスイスにおける投資について、回収可能価額が変動したことによるものです。

社債及び借入金の公正価値

当社グループの非流動の社債及び借入金の帳簿価額と公正価値は、以下の通りです。

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2016年9月30日)		前連結会計年度末 (2016年3月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
銀行借入金	292,357	271,815	269,532	254,623
社債及びその他の借入金	14,949	14,254	15,158	14,086
リース債務	72	72	65	65
非支配持分に対する非持分 金融商品である優先株式	4,144	4,144	4,564	4,564
	311,522	290,285	289,319	273,338

当社グループでは、上の表に記載されたもの以外の資産及び負債の公正価値は、連結貸借対照表の帳簿価額に近似すると考えております。

(o) 重要な後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

2016年11月1日

日本板硝子株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 功樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 隆之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本板硝子株式会社の2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2016年7月1日から2016年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結貸借対照表、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本板硝子株式会社及び連結子会社の2016年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年11月1日
【会社名】	日本板硝子株式会社
【英訳名】	Nippon Sheet Glass Company, Limited
【代表者の役職氏名】	取締役代表執行役社長兼CEO 森 重樹
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役代表執行役副社長兼CFO 諸岡 賢一
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目5番27号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役代表執行役社長兼CEO森 重樹及び当社最高財務責任者である取締役代表執行役副社長兼CFO諸岡 賢一は、当社の第151期第2四半期（自平成28年7月1日 至平成28年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。